

子ども理解の視点と対応

各務原病院 臨床心理士・公認心理師
井上 修一

自己紹介

医療法人杏野会 各務原病院 心理士
岐阜県 スクールカウンセラー
大垣市教育委員会 教育委員

平成8年	名古屋大学理学部卒業
	学志塾 開校
平成16年	岐阜大学教育学部卒業
平成18年	岐阜大学教育学研究科修了
平成18～25年	岐阜県スクール相談員
平成24年	放送大学大学院臨床心理プログラム終了
平成26年	臨床心理士資格取得
平成26年～	岐阜県スクールカウンセラー
平成26～30年	滋賀県蒲生郡日野町教育相談センター 心理士
平成31年～	各務原病院 心理士 公認心理師資格取得
令和5年～	大垣市教育委員会 教育委員

学会・資格など

- ・日本心理臨床学会
- ・日本EMDR学会
- ・EMDR治療者資格
- ・臨床心理士
- ・公認心理師

2024年度 トピックス

- ・日本小児心身医学会
- ・能登地震災害支援

2025年度 トピックス

- ・日本心身医学会
- ・発達とトラウマ勉強会

今日のお話

★仮想事例

★子ども理解の視点

- ・発達特性
- ・環境要因

①アタッチメント

②トラウマ

★対応について

★子どもたちの現状

★仮想事例

今日のお話

★仮想事例

★子ども理解の視点

- ・発達特性
- ・環境要因

①アタッチメント

②トラウマ

★対応について

★子どもたちの現状

仮想事例

小学校6年生男子。父・母・本児・妹（3年生）の4人家族。

幼少期に広汎性発達障害の診断あり。

通常学級に在籍していたが、低学年の頃から感情コントロールが難しく、学校で嫌なことがあると、大声で叫んだり、物を投げたり、教室を出て行ってしまうこともあった。

学校からは頻繁に連絡があり、母親は疲弊している。家では厳しくあたってしまう。

学校では、教室内で問題が起きたときは、その場で指導するが、おさまらないときは別室に連れて行き、落ち着くまで支援員がつく形がとられていた。

6年生になって、教室を出て行く回数が増え、学校外に出てしまうこともあった。

★子ども理解の視点

発達特性

今日のお話

★仮想事例

★子ども理解の視点

・発達特性

・環境要因

①アタッチメント

②トラウマ

★対応について

★子どもたちの現状

発達特性（神経発達症）

★知的能力障害群

★コミュニケーション症群（語音障害 吃音 など）

★自閉スペクトラム症（ASD）

★注意欠如・多動症（AD/HD）

★限局性学習症（LD）

★運動症群（協調運動障害 チック など）

★他の神経発達障害

広汎性発達障害・アスペルガー・高機能自閉などの言葉は今は使わない。

自閉スペクトラム症（ASD）

★社会的コミュニケーションや対人相互関係における持続的な障害

自然に決まっているルールを察知することが苦手
相手の身振りや表情を読み取りにくい
友だちを作り、その関係を長く保つことが難しい

気持ちを言葉にできない交渉ごとが苦手
人付き合いが動機にならない

★限定された反復する様式の行動、興味、活動

同じ言動を繰り返す 特定の物や事柄にこだわる
様々な感覚にかたより(過敏さ、鈍感さ)がある

あいまいさが苦手 思い込みが強く修正が効きにくい
「まあいっか、しかたない」と思えない
好きなものが増えない、嫌いなものが増えやすい

適切な学習の場の確保
認知特性にマッチした支援

注意欠如・多動症（AD/HD）

不注意

集中力が続かない 気が散りやすい 忘れっぽい

多動性

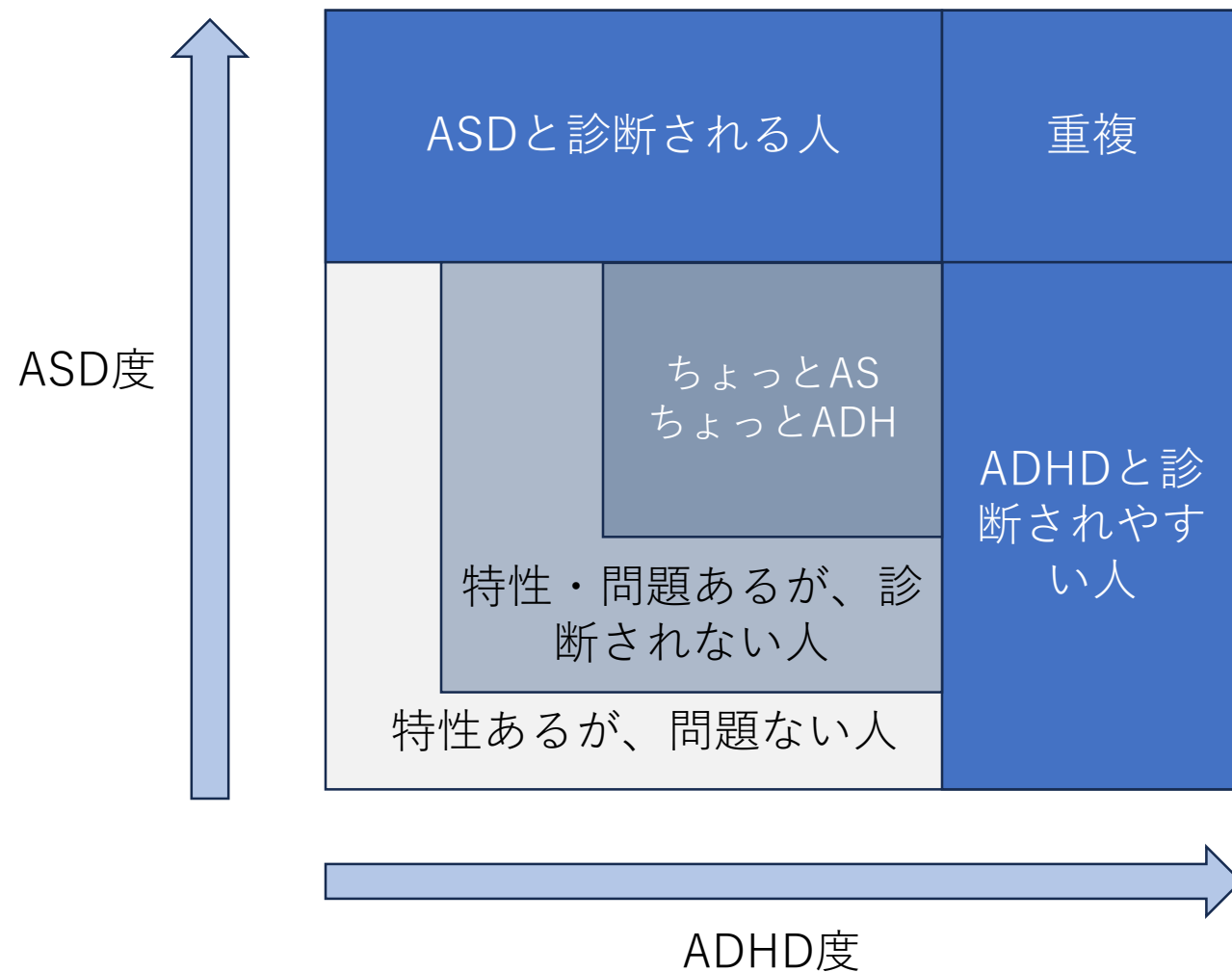
じっとしていることが苦手で、落ち着かない

衝動性

思いついた行動について、行ってもよいか考える前に行動する

適切な学習の場の確保
行動特性への働きかけ

特性は複合的



★子ども理解の視点

環境要因 ①アタッチメント

今日のお話

★仮想事例

★子ども理解の視点

・発達特性

・環境要因

①アタッチメント

②トラウマ

★対応について

★子どもたちの現状

アタッチメントとは

くっついて安心感を得る不安解消のシステム

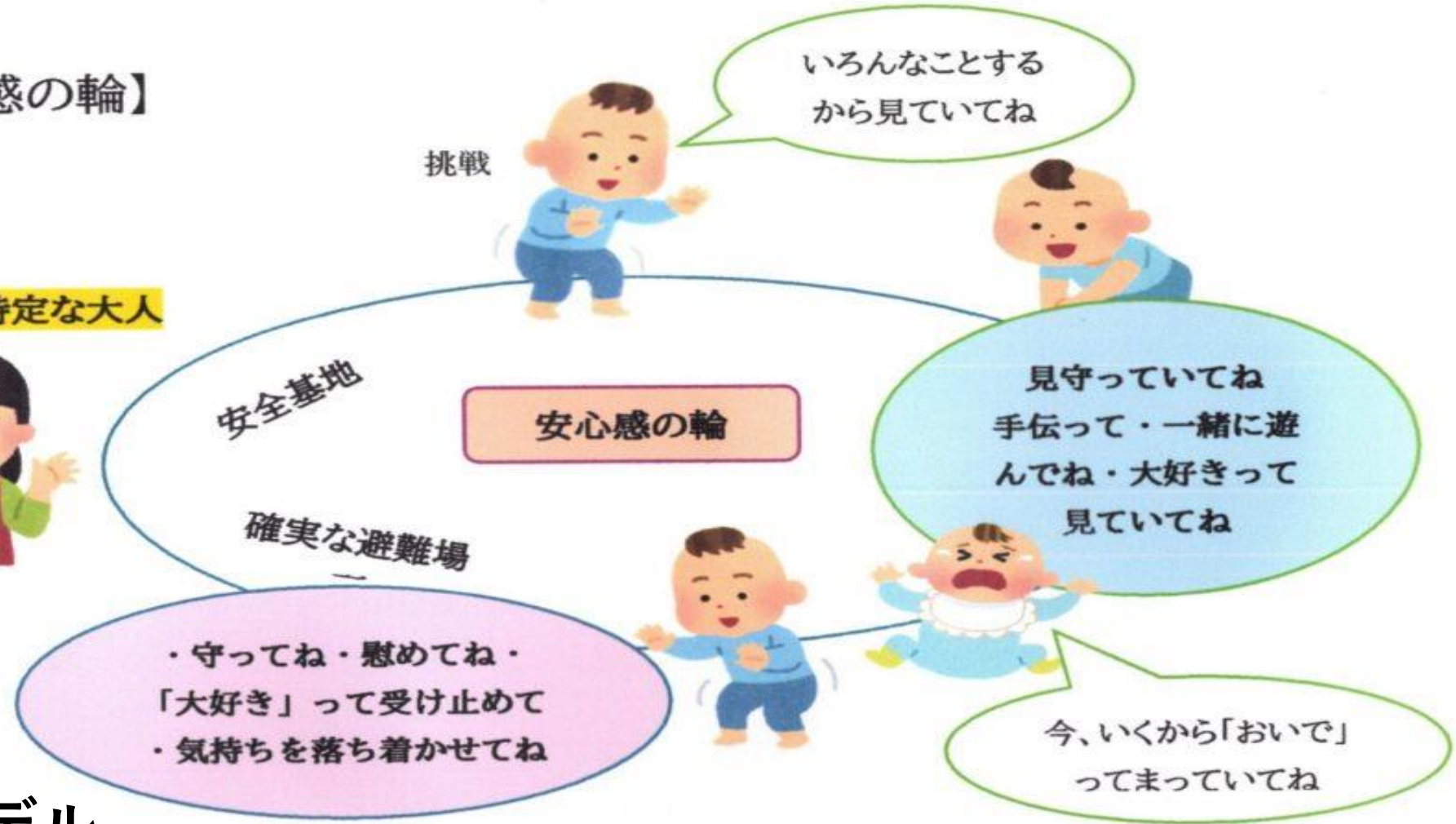
安定したアタッチメントの経験の蓄積

自他への信頼感

自分には愛される価値がある
人は信じられる存在である

【安心感の輪】

子どもにとって特定な大人



内的作業モデル

養育者との愛着が内在化し、他者との関係の取り方として機能するモデル

→何歳からでも、適切に関われれば再構築可能

＜キーパーソンによる感情支援＞

★子ども理解の視点

環境要因 ②トラウマ

今日のお話

★仮想事例

★子ども理解の視点

- ・発達特性
- ・環境要因

①アタッチメント

②トラウマ

★対応について

★子どもたちの現状

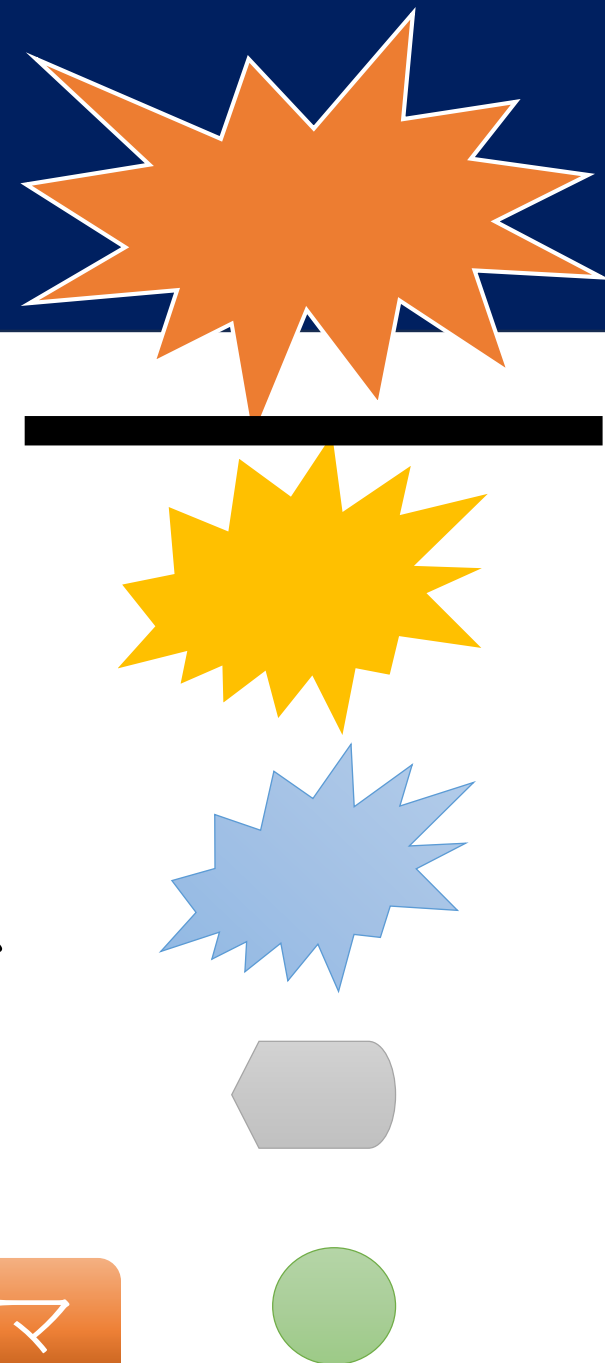
トラウマとは

- 辛い出来事を経験すると…
 - イライラ、落ち込み、不安、恐怖
- おさまりの良いところを求めて
 - 原因を考える、対処を考える、教訓を得ようとする、似たような場面で他の結果を考える
 - そのために、自分で考え、夢に見、日記に書き、人に聞いてもらう。（何度もアクセスする）

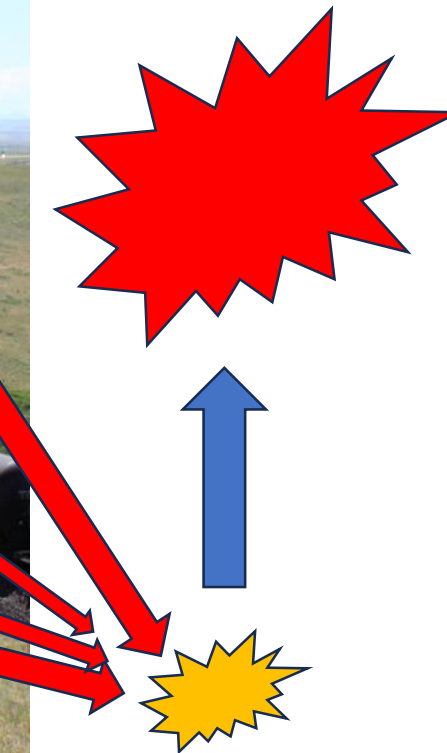
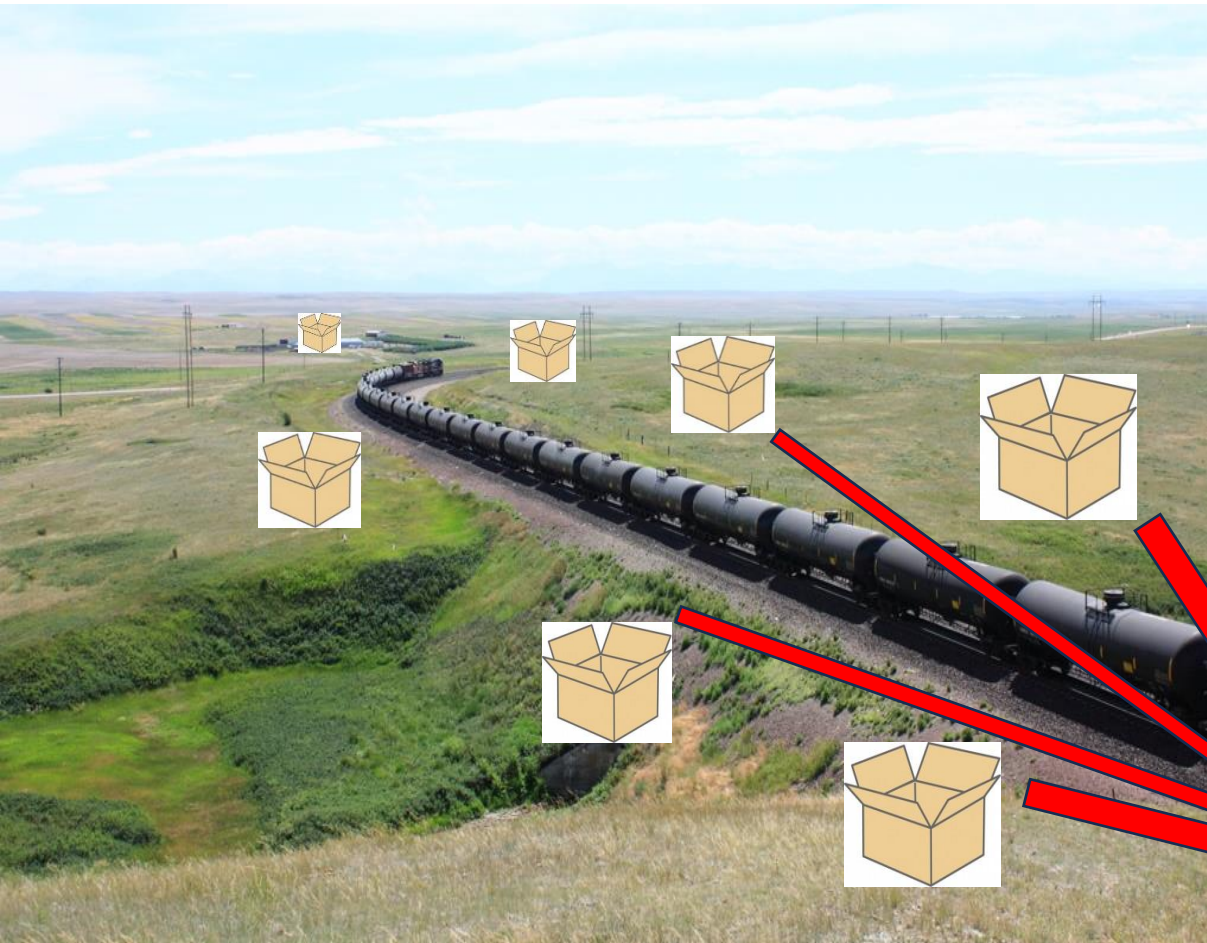
何らかの原因で記憶の処理が進まないと…

辛い記憶が処理されず、残ってしまう。

トラウマ



辛さの積み算（複雑性PTSD）



トラウマエピソード

整理されないまま残った辛さが今の出来事に上乗せされてしまう。



耐えられない。



闘争・逃走・凍りつき

トラウマ反応

再体験…侵入的回想・フラッシュバック等

回避…出来事関係を回避しようとする

過覚醒…不眠・イライラ・集中困難等

陰性気分…幸福感や満足感を体験できない

解離症状…離人感・現実感の消失

私たちの言葉が、トラウマ反応を引き起こす
引き金（リマインダー）になることもある。

3つのF（ポリヴェーガル理論）

闘争反応（Fight）

怒りを爆発させる

逃走反応（Flight）

うそをつく 逃げる

凍りつき反応（Freeze）

大丈夫な振りをする（無意識）

固まる

精神(命)を守るための行動

3つのF（ポリヴェーガル理論）

闘争反応（Fight）

怒りを爆発させる人

怖いから、そこには触れずにいよう。

関係性を築いてから（大前提）

どういうときに怒りがわいてくるのか。

過去に同じようなことがなかったか。

3つのF（ポリヴェーガル理論）

逃走反応（Flight）

うそをつく その場から逃げようとする
またか。本当にどうしようもないな。

関係性を築いてから（大前提）

逃げたくなる気持ちに共感

→その気持ちを話してくれることも。

3つのF（ポリヴェーガル理論）

凍りつき反応（Freeze）

大丈夫な振りをする（無意識）

大丈夫そうだから、このままでいいね。

固まる

ちゃんと言わないとわからないよ。

時間をかけながら、問題を意識化していく。

治療的介入が必要

安心・安全感の提供

トラウマを抱えている人

いつも緊張状態

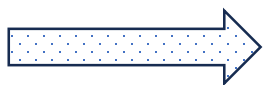
戦闘モード

孤独と不安。

休息の場がない。



「今、ここなら、大丈夫」
という場所の提供



「この人になら話しても大丈夫」
と思われる関係性の提供

★対応について（仮想事例再考）

今日のお話

★仮想事例

★子ども理解の視点

- ・発達特性
- ・環境要因

①アタッチメント

②トラウマ

★対応について

★子どもたちの現状

仮想事例①

小学校6年生男子。父・母・本児・妹（3年生）の4人家族。

幼少期に広汎性発達障害の診断あり。

通常学級に在籍していたが、低学年の頃から感情コントロールが難しく、学校で嫌なことがあると、大声で叫んだり、物を投げたり、教室を出て行ってしまうこともあった。

学校からは頻繁に連絡があり、母親は疲弊している。家では厳しくあたってしまう。

学校では、教室内で問題が起きたときは、その場で指導するが、おさまらないときは別室に連れて行き、落ち着くまで支援員がつく形がとられていた。

6年生になって、教室を出て行く回数が増え、学校外に出てしまうこともあった。

今日の視点で考えてみると

★発達特性

自閉スペクトラム症への支援

環境調整の提案（支援級・通級など）
認知支援（どう捉えているのか話を聴く）

★アタッチメント

特性による育てにくさがあったかもしれない。

キーパーソンによる感情を受け止める関わりを意図的に作り出す。

★トラウマ

学校生活におけるトラウマが積み算になり、闘争・逃走反応になっている可能性がある。

「今、ここでも大丈夫」という場所、
「この人なら話しても大丈夫」という関係性の提供

仮想事例②

小学校5年生女子。母・本児・妹の2人家族。

外国籍で、母はラーメン屋で仕事をしながら、生計をたてている。土日仕事なので、本人をラーメン屋に連れていき、そこで本児も過ごしている。家庭では、タガログ語を話しているが、学校では日本語を話している。日本で生まれているため、疎通に問題はない。

小学校4年生までは登校できていたが、友人との距離感が原因で何度もトラブルになっていた。

5年生になって、保健室利用が増えた。徐々に教室に入れなくなり、保健室登校となった。

養護教諭は20代前半の先生で、その先生にべったり。

他の先生や児童と話すのも嫌がる様子が見られた。

医療・福祉とのつながりはない。

今日の視点で考えてみると

★発達特性

情報はないが、ASDはあるかも。

要観察。場合によっては医療へ。

★アタッチメント

対人関係の距離感から愛着の問題はあると思われる。

キーパーソンによる感情を受け止める関わりを意図的に作り出す。

キーパーソンを応援する体制を構築し、周囲の理解を促す。その後の見通しを共有しておく。

★トラウマ

学校生活における対人取らうブルがトラウマとなり、逃走反応になっている可能性がある。

フラッシュバックと思われる症状はないか観察。

仮想事例③

中学校2年生男子。父・母・祖母・本児・妹の5人家族。

中1までは、登校することはできていた。小学校からの申し送りでは、コツコツ真面目に学習するタイプではあるが、学習方法（ノートの取り方など）にこだわりがあり修正することが難しい、とのこと。

中1のときは、教室であまり目立つタイプではなかったが、課題もきちんと提出していた。友人もいて、休み時間はその友人と話している姿が見られた。

中2になって、数学のワークの宿題を忘れて教科担任に呼び出され、強めに注意された。その日から登校できなくなった。家庭訪問しても、担任が会うことはできない状態。

母からの情報では、父とは折り合いが悪く、会うのを避けている。父自身とても厳しい人であると。

今日の視点で考えてみると

★発達特性

自閉スペクトラム症の可能性

★アタッチメント

特性による育てにくさがあったかもしれない。

★トラウマ

先生からの注意が父のフラッシュバックとなった可能性がある。

環境調整が必要かのアセスメント

母子関係の聞き取り

本人と会うことができないので、
「今、ここなら大丈夫」という場所、
「この人なら話しても大丈夫」という関係性の提供を母を通して伝えてもらう。

子どもたちの現状

今日のお話

★仮想事例

★子ども理解の視点

- ・発達特性
- ・環境要因

①アタッチメント

②トラウマ

★対応について

★子どもたちの現状

子どもの幸福度

①身体的健康 1位

死亡率、過体重・肥満の割合

②精神的幸福度 32位

生活満足度の高さ、自殺率

③スキル 12位

学力、社会的スキル

総合順位 14位

子どもの幸福度②

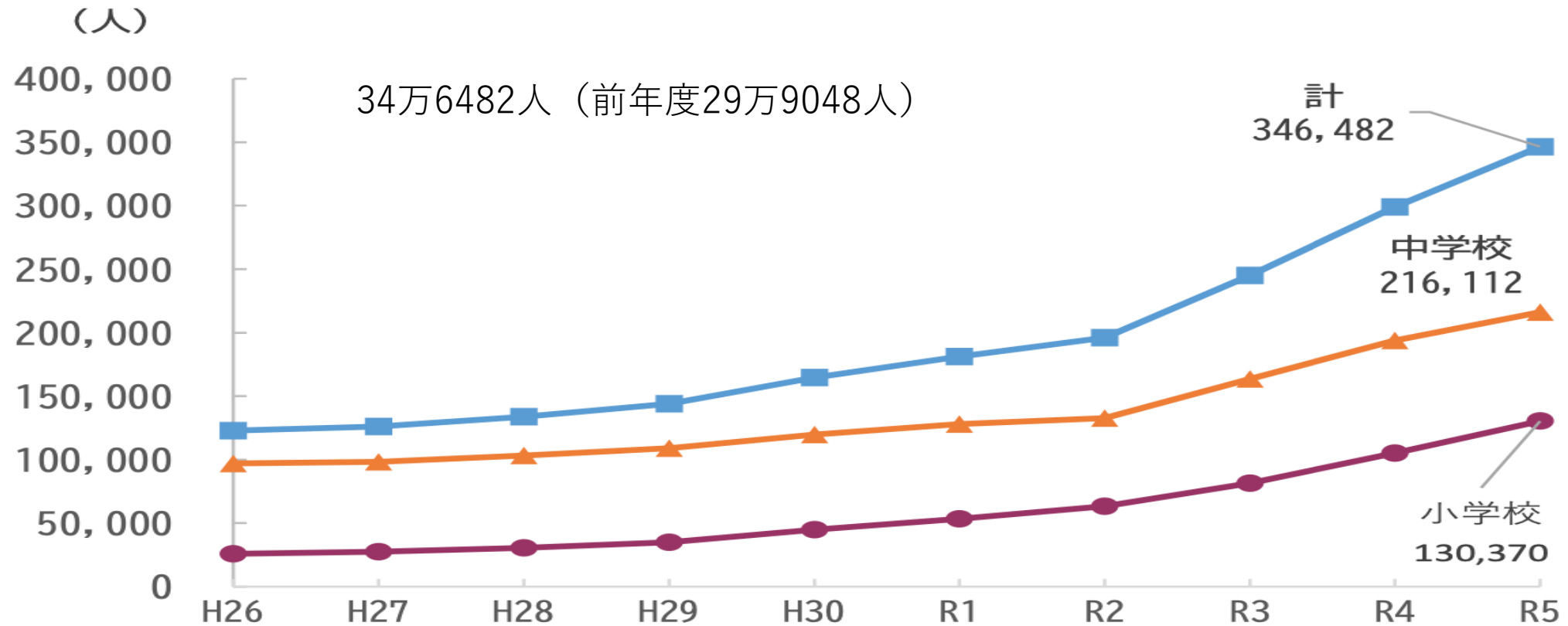
精神的健康度：32位

◆生活満足度 62%(2018年)→71%(2022)

◆15～19歳の自殺率（10万人当たり）
7.37(2018) → 10.41(2022)

自殺率の上昇≡心の病気の発症率の上昇
10代の子どもの精神的負担が増加している。
安心できる生活の場の提供が急務

不登校の増加



（令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果より）

ご清聴ありがとうございました。

参考資料

発達性トラウマ障害と複雑性PTSDの治療 杉山登志郎

子ども虐待とトラウマケア 亀岡智美

学校トラウマの実際と対応 藤森和美

トラウマと依存症 友田明美 廣中直行